

# 令和元年度「ふくしまを知る連続講座」 実施報告

当館では県民の皆様の文化振興に寄与するため、「ふくしまを知る連続講座」を実施しています。ここでは今年度開催したものを簡単に紹介します。

## 第1回 「私の好きなふくしまの山」

講師：西岡 義治 氏

開催日：令和元年6月16日（日）14：00～15：30 参加人数：120名

『わが愛しき福島山の山』（彩流社,2018）等を著し、外務省の太平洋諸島フォーラム事務局（フィジー）で勤務された経験もある西岡氏に、福島県の山に興味を持った経緯や、その自然の豊かさ、心ひかれた人々の優しさについてお話ししていただきました。福島市松川町に残る「羽山ごもり」の体験談や、フィジーのメラネシア文化と日本の祖霊信仰の共通点など、ご自身の長年の経験から語られる言葉に、参加者が熱心に耳を傾ける様子が見られました。また、会津の木地師（ろくろを使って木製の食器等を作る職人）の話題では、蒲生氏郷が会津に入り、近江から職人を連れてくる以前にも、すでに木地師が存在していたことを取り上げ、現在に残る会津漆器との関連についても紹介されました。このほかにも福島市の土湯こけしなど、身近な話題を豊かな体験談をもとに説明していただきました。

※この講座に関連し、令和元年6月13日（木）～7月3日（水）にかけて、ミニ展示「ふくしまの山」を開催しました。

## 第2回 「はま・なか・あいづ再生史」-遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-

講師：阿部 知己 氏（県文化財センター白河館 副主幹）

開催日：令和元年6月23日（日）14：00～15：30 参加人数：40名

令和元年10月に発生し、県内各地に甚大な被害をもたらした台風19号は記憶に新しく、未だ復興の途上にあります。福島県では古くから各地域が災害に見舞われてきましたが、そのたびに再建し、立ち上がってきました。今回の講演会では下記展示の内容を踏まえ、県内3地方それぞれの遺跡に残る災害の痕跡から、その後の人々の営みについて講演していただきました。焦点が当てられたのは、浜通りの津波、中通りの阿武隈川氾濫、そして会津での火山噴火です。残された史料から読み取ることができるのは、人間と自然が共存してきた足跡です。このことを後世に伝えるために私たちには何ができるのか、改めて考えるきっかけとなりました。

※この講座は令和元年6月7日（金）～7月3日（水）にかけて当館で開催された、「福島県文化財センター白河館（まほろん）移動展示 はま・なか・あいづ再生史 -遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-」の関連事業です。

### 第3回 「四季折々 ふくしま ほんものの旅」

講師：第1部 季刊情報誌『ふくしまほんものの旅』について

武藤 淳 氏（県観光物産交流協会観光部長）

第2部 登山と観光の情報サイト「やまふく」について

清水 綾子 氏（県観光交流課副主査）

開催日：令和元年9月15日（日）14：00～15：30 参加人数：42名

本県の観光に携わる方々にガイドブック、ホームページ作成へかける思いや、おすすめの観光スポットについてお話ししていただきました。題名にもある情報誌は春・夏・冬の年3回発行されており、カラフルな表紙が特徴です。読者層は女性がメインとのことで、県内各地の温泉やお土産情報等が満載です。一方、サイト「やまふく」では、県内の山々を「ふくしま30座」として紹介しています。有名な山だけではなく地元で愛される山にもスポットを当て、登山コースやトレッキングの案内を掲載しているほか、周辺情報として温泉やグルメの話題も収録されています。※この講座は令和元年9月6日（金）～10月2日（水）にかけて当館で開催した、「ふくしま観光ガイドブック展」の関連事業です。

### 第4回 「からむし織の里・昭和村歴史紀行 ―生業・信仰・戊辰戦争―」

講師：渡邊 智裕 氏（[公財]福島県文化振興財団 歴史資料課 主幹）

開催日：令和元年10月27日（日）14：00～15：30 参加人数：36名

「からむしの里」昭和村の歴史について、古文書や行政文書をもとに講演していただきました。特産として有名なからむしの栽培方法は、江戸時代に記された農書（農業技術書）に記載があります。今回は『会津農書』と『農業全書』を参考に説明していただきました。また、村内の2つの神社に残る古文書を読み解き、その信仰について解説をいただいたほか、明治政府が造った「官修墳墓」に関する資料から、昭和村における戊辰戦争の展開についてもお話していただきました。※この講座は、令和元年10月4日（金）～11月10日（日）にかけて当館で開催された、「福島県歴史資料館移動展示 奥会津の古文書 -昭和村を中心に-」の関連事業です。

### 第5回 「福島の偉人 三浦謹之助博士～ふくしまに残した足跡と周辺の人々」

講師：高橋 信一 氏（伊達市教育部生涯学習課学芸員）

開催日：令和元年11月23日（土）14：00～15：30 参加人数：43名

三浦謹之助博士は伊達市（旧保原町）出身で、現在の東京大学医学部を卒業後、明治天皇や大正天皇の医者として活躍した人物です。今回の講演会では、開催していた下記展示をもとに、最近になって判明した新たな知見を踏まえた内容をお話ししていただきました。また、三浦博士の周辺人物も取り上げられ、博士が東京で成功を収めた背景には、同じく医師で、樋口一葉の最期をみとった義兄からの支援があったこと等が話題に上がりました。そのほか、信達地方に養蚕が発達した経緯や、文化人が多く生まれたその背景についてもお話ししていただきました。※この講座は、令和元年11月12日（火）～12月4日（水）にかけて当館で開催された、「伊達市保原歴史文学資料館移動展示『福島の偉人 三浦謹之助博士』」の関連事業です。

（地域資料チーム 高橋真希）